

しんぎ かいぎ けっか  
審議（会議）結果

しんぎかいとうめいしょう 審議会等名称	だい かいかながわけんしょうがいしゃせさくしんぎかいしょうがいとうじしゃぶかい 第3回神奈川県障害者施策審議会障害当事者部会
かいさいにちじ 開催日時	れいわ ねん がつ にち すいようび じ じ 令和6年10月30日（水曜日） 14時から16時まで
かいさいばしょ 開催場所	かながわけんちやうしんちやうしゃ かい だい かいぎしつ さんかあ 神奈川県庁新庁舎5階 第5会議室（オンライン参加有り）
しゅつせきしゃ 出席者	ぶかいちやう ないとういん い かめいぼじゆん うつぎいん おやまいん こやま 【部会長】内藤委員、（以下名簿順）宇都木委員、尾山委員、小山 委員、下条委員、関委員、高野委員、高橋委員、多賀谷委員、 ならざきいん はんざわいん ゆみやいん けい にん 奈良崎委員、榛澤委員、弓矢委員（計12人）
じかいかいさいよていび 次回開催予定日	みてい 未定
しよぞくめい たんとうしゃめい 所属名、担当者名	しょうがいふくしかきかく わたなべ 障害福祉課企画グループ 渡邊
といあわ さき 問合せ先	でんわ 電話（045）285 - 0528 ファクシミリ（045）201 - 2051
けいさいけいしき 掲載形式	ぎじろく 議事録
しんぎけいか 審議経過	い か 以下のとおり

ぎ だい  
《議 題》

- こんご しゃかいかつやく む とうじしゃぶかい とく く  
（1）今後の社会活躍に向け、当事者部会で取り組んでいきたいことについて
- かながわけんとうじしゃめせん しょうがいふくしすいしんじやうれい い しゃかい めざ  
（2）神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～  
もと きほんけいかく  
に基づく基本計画について

ほう こく  
《報 告》

- しょうがいふくし かか せいさくりつあんかてい しょう しゃ さんか けん かいぎ しょう  
（1）障害福祉に係る政策立案過程への障がい者の参加について（県の会議への障がい者の参加について）

はいふしりやう  
《配布資料》

- しりやう こんご しゃかいかつやく む とうじしゃぶかい とく く  
資料1：今後の社会活躍に向け、当事者部会で取り組んでいきたいこと
- しりやう かながわけんとうじしゃめせん しょうがいふくしすいしんじやうれい い しゃかい  
資料2-1：「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を  
めざ もと きほんけいかく しひやう  
目指して～に基づく基本計画」の指標について
- しりやう かながわけんとうじしゃめせん しょうがいふくしすいしんじやうれい い しゃかい  
資料2-2：「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を  
めざ もと きほんけいかく がいやうばん  
目指して～に基づく基本計画」の概要版について
- ほうこくしりやう せいさくりつあんかてい しょう しゃ さんか  
報告資料1：政策立案過程への障がい者の参加について  
けん かいぎ しょう しゃ さんか  
（県の会議への障がい者の参加について）

※その他、尾山委員から当日提出された意見一覧を配布（別添参照）

じむきよく しんこう  
【事務局による進行】

- かわなふくし こ きやくちやうあいさつ  
・川名福祉子どもみらい局長挨拶
- じ むれんらく  
・事務連絡

ないとうぶかいちょう しんこう  
【内藤部会長による進行】

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

内藤でございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。議事に入る前に、皆様  
が、活発に自分の御意見を表明できる有意義な会となるように、いくつかのお願いをし  
たいと思います。まず、時間が限られておりますものですから、御発言につきましては、  
なるべく簡潔にいただければと思います。多くの委員に御発言いただきたくため、発言  
される場合には、1回あたり概ね2分以内を目安でお願いできますと幸いです。

なお、事務局から、前回同様、後日意見の提出も可能とすると聞いております。時間  
の都合で言いきれなかったこと等がございましたら、そちらも御活用ください。

それでは、早速議事に入らせていただきます。

議事の進め方についてでございますが、次第にあります通り、議題が2つ、報告が1つ  
でございます。議題1は、説明と意見交換、合わせて35分ほどを予定させていただいて  
おります。その後、議題2の前半を10分程度行います。議題2の途中で休憩を15分ほ  
ど挟みます。

休憩終了後をめぐりに首藤副知事がお見えになると聞いておりますものですので、  
後半開始時に御挨拶いただく予定でございます。御挨拶の後、議題2の後半を10分ほど、  
報告事項を15分程度行いたいと思います。委員の皆様の御協力のもと、円滑にかつ活発  
な議論ができるように、よろしくお願いたします。

それでは、議題1につきまして、事務局から説明をよろしくお願いたします。

じむきょく  
(事務局)

しりょう もと せつめい  
資料1に基づいて説明

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

では早速、議題1についてでございます。

まず事務局から議題の候補について説明がございましたが、いずれの議題の候補も、  
とても大切な内容かと思えます。事務局から話を聞いたところ、事前の説明において、  
皆様それぞれ話し合いたい議題が違ってたということもございましたものですから、  
委員の皆様からの御意見をもとに、議題を決め、このような部会場で話し合うのは、  
今回初めてということもございますものですから、話しやすい、意見が出やすいものか  
ら、まずは始めてみてはどうかと考えております。

1つ目の議題案は、先ほどの事務局からの説明もございました通り、この場で順々  
に意見を出していただき、それを事務局で取りまとめいただく方法よりは、事前もし

くは部会後の追加意見の際に、あらかじめ皆様に御意見を頂戴しておき、それを部会の場で共有しながら、進める方が効率的かと思っています。

また3つ目の親なき後につきましては、これも大変重要な内容であり、ぜひ議論したいというふうなお声もいただいているのですが、事務局から説明があったように想像することが辛いという方もいらっしゃるかと思えます。また、実際に体制としてどこまで整備できているのか制度の話なども、事務局側にも準備していただく必要があるかと思われま。

つきましては、今回は2番目の、「個人または団体の活動を社会へ発信することについて協議したい。」について、まずは話し合いをしてみることにしてはいかがでしょうか。この議題は比較的皆様の、イメージのすり合わせがしやすく、また苦勞されている部分もあるかと思われま。例えば、各団体や、皆さん個人での活動について、発信することの目的や、現在の発信方法、あるいは発信について、困っていること、今後の発信の方法等を情報交換し、その内容を施策審議会にも報告することとしたいと考えていますが、いかがでございましょうか。

委員の方もよろしゅうございませうでしょうか。

それでしたら他に意見がないようございませうから、2番目のことにつきまして議論をしていきたいというふうにおもいます。

この議題を始めるにあたって、まず重要なことはゴールの設定かと思えます。皆さんからそれで意見いただくわけございませうが、部会では最終的にこの意見を施策審議会に報告できる形にまでまとめなくてはならないと考えています。

部会が出た意見をまとめるには、まずはこの議題の目的を整理したいと思えます。この議題の目的は、大きく2つあると考えています。

1つ目は、この場での委員同士の情報交換により、各団体や各個人の活動の社会への発信の参考となること。

2つ目は、ここで出された意見により、県が今後の取組を進めていく中で参考とすることございませう。

このような認識でよいでしょうか。

協議の流れにつきましては、この会議での意見交換の内容や議論、皆さんが困っていることなどを各委員に発信してもらい、事務局にまとめていただき、最終的には施策審議会に報告するというのでよろしいでございませうか。まとめていただいてそれを発信するというのでございませう。異議がなければ、それではそういった方向で進めていければと考えております。

続きましてスケジュールにつきましては、資料では全3回で、この議題の関係ということで例示されていますが、個人または団体の活動を、社会へ発信することについて、協議につきましては、さほど時間を要しないと考えております。

ひとまず、本日、皆さんから意見をいただき、意見が出尽くせば、次回の部会の際にその意見をまとめた、施策審議会に報告する資料を事務局案を提示していただくようであればと思っておりますが、いかがでございましょうか。

意見をいただいて、それを事務局の方で、次回のときに、まず、出していただくということでございます。

はいどうぞ、下条委員。

#### （下条委員）

下条です。今のお伺いした内容なんですけれども、多分これ、意見交換1回だけでは出しきれないものっていうのは必ずあると思うんです。

ですので、1回目の意見交換の内容を、まず事務局でまとめていただいて、まとめていただいたものを、第4回、次の会の時に、また出していただいて、それを含めよう1回検討しなければいけないんじゃないかと思うんですが。

#### （内藤部会長）

今、下条委員から、1回ではまとめきれないと思われるから、2回目の再度まとめができなかったものに関しては、プラスしてという御意見でよろしいですか。

#### （下条委員）

まず、1回目です出したものをその場で聞いて意見を言うっていうのは、できる場合と後から見直して、もう一度考えたり、新しく出したいものが出てきた場合っていうのは必ずあると思いますので、1回目です出てきたものをまとめてもらって、それを含めた上でまた意見交換したほうが良いかと思っております。

#### （事務局）

事務局の方は対応できますので、皆様の決定で進めていただければと思います。

#### （内藤部会長）

はい。下条委員からそういう意見が出ましたが、それでよろしゅうございましょうか。事務局の方はそれで大丈夫とのことですから。はい。尾山委員どうぞ。

#### （尾山委員）

ピアサポーターの尾山です。いつも精神障がい立場で、このような場に来させていただきまして誠にありがとうございます。

ただいま下条委員の発言には私も賛同でございまして、今日やっとテーマ決まった

ので、今日全部きょうぜんぶというのは少し早いすこはやと思いますので、今日きょうのところでいくつか出したものをもとに、また次回じかいもやればすごく良い協議よきぎょうぎの場になるんじゃないかなというふうにかんがえております。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

異議いぎがないようでございますから、とりあえずは、皆様みなさまの方から御意見ごいけんをいただきたいということ。

こやまいいん  
(小山委員)

横須賀本人会よこすかほんにんかいの小山こやまです。今、それぞれの方がどんな活動かたかつどうしているかっていうのを知ってもらったほうがいいんじゃないですかね。一人ひとりひとり。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

そうしましたら、小山委員こやまいいんから順じゆんに。

こやまいいん  
(小山委員)

横須賀本人会よこすかほんにんかいトゥモローカエルです。知的団体ちてきだんたいなんですよ。知的の親ちてきおやの会かいが作った団体だんたいです。

福祉関係ふくしかんけいの寄付きふを集めたり、研修会けんしゅうかいなどをやっています。海外かいがいからの情報じょうほうを集めたり、海外での大会たいかいに参加さんかしたりする場合ばあいもあります。全国大会ぜんこくたいかいみたいなものもあり、この間あいだも関東ブロック大会かんとうたいかいに参加さんかしました。最初さいしょのうちは私たちわたし研修けんしゅうなんかをやって、人数にんずうが減へったんで今は、余暇活動いまよかかつどうなんかもしていますね。

せきいいん  
(関委員)

関せきです。よろしくお願ねがいします。精神せいしんの方ほうのピアサポーターをやっています。

病院訪問びょういんほうもんや、体験発表たいけんはつひょうや、このような会議かいぎとかで、精神せいしんに関する発言はつげんをしています。地活ちかつの方ほうで当事者とうじしゃのセルフヘルプグループつぎかいを月に1回いじょうやっています。以上です。

しもじょういいん  
(下条委員)

下条しもじょうです。私わたしは団体だんたいに所属しよぞくをしていないので、活動かつどうしている内容ないようは関さんせきと被かぶるんですが、まず、葉山はやまにある地活ちかつの方ほうのセルフヘルプグループ、アットホームトントンというところで、当事者とうじしゃオンリーの会かいでいろんなことを決めて、イベントをやったりすることがありました。

今は人数にんずうが減へってしまったんですけれども、過去かこには当事者とうじしゃだけの勉強会べんきょうかいとか、コンサートの主催しゅさいなんかもさせていただいたことがあります。個人こじんとしては、こちらみた

いな行政の会議に参加させていただいているくらいで、団体自体の活動はまだ今はあまりしていません。以上です。

たかはしいん  
(高橋委員)

かながわもう しゃ たかはしかずよ もう  
神奈川県盲ろう者ゆりの会の高橋和代と申します。

いえ ひとり もう しゃ しえん  
家に1人ぼっちでいる盲ろう者を、支援するというをやっております。それから通訳介助員がいるということですね。

また、もう しゃ あつ たが こうりゅう かつどう  
また、盲ろう者が集まって、お互いに交流をしていく、そして活動をともしていく。触手話また指文字等のコミュニケーション方法を使って仲間づくりをしていくということですね。

それから、しょうがっこう さまざま だんたい い もう しゃ  
それから、小学校や様々な団体のところに行きまして、盲ろう者をわかっていただくための講演活動を行っております。ほかにも、いろいろな手話サークルがありますので、そこに出向いて行って盲ろうのことをわかっていただくためにお話をするということをやっております。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

どうもありがとうございます。

うつぎいん  
(宇都木委員)

はい。しかくしょうがいしゃきょうかい うつぎ もう  
はい。視覚障害者協会の宇都木と申します。

わたし しかくしょうがいしゃきょうかい しちょうそん だんたい かた いっしょ  
私どもの視覚障害者協会では、市町村の団体の方たちと一緒に、いろいろな要望事項等を提出議題という形で出して、それを県や市町村の方に、要望していく活動ですとか、同行支援とってガイドヘルパーの研修等の活動も行っています。

あと、ぶんかかんけい かつどう はいく せんりゅう つく ほっぴょう  
あと、文化関係の活動として俳句とか川柳とかそういったものを作って発表したりとか、そういったことをしております。

それで、どこの団体もそうかと思うんですけれども、いま かいいんすう へ  
それで、どこの団体もそうかと思うんですけれども、今、会員数がすごく減ってきてしまっていて、どのようにその会員をふやしていくかっていうところの、とりにくみ  
で、さがみはらし しかくしょうがいしゃきょうかい ほう せん しょうだん  
で、相模原市のことになるんですけれども視覚障害者情報センターというところがさがみはらしにはございまして、そこでしかくしょうがいしゃきょうかい ほう なん しょうだん  
相模原市にはございまして、そこで視覚障害者協会の方で何でも相談サロンっていう形で、ピア相談を行っております。

それから、リーフレットを作って、がんか こうみんかん としょかん お  
それから、リーフレットを作って、眼科や公民館それから、図書館などに置かせていただいたり、あと、ポスターを作って、公民館とかに貼らせていただいております。そのおかげで、すこ かいいん かた ふ いじょう  
それで、少しずつではあります、会員の方が増えてきているところです。以上です。

たかのいいん  
(高野委員)

かながわけんなんびょうだんたいれんらくきょうぎかい たかの はじめ きほんてき はなし  
神奈川県難病団体連絡協議会の高野元です。基本的には、ALSのお話をしていま  
す。

ALSの最大の問題は、告知をされると社会全部が諦めることです。ALS協会は、  
それでも生きる希望を発信しています。対面でもネットでも話します。基本的にはいろ  
んな協会とかではALSっていうのは特に情報が少なかったりするので、告知された  
患者さんへの情報の共有のアプローチだったりとか、サポートとかも含めてそういう  
さまざまな活動を、いろいろ含めてしています。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

おやまいん ねが  
尾山委員、よろしくお願ひします。

おやまいん  
(尾山委員)

はい、精神障がいピアサポーターの尾山です。私たちの活動は多々ございますが、主  
に3つです。

1、病院訪問。精神科の病院にピアサポーターが訪問し、入院されている当事者の  
方とお会いし、地域医療から地域福祉へ支援の体制を変えたものが自分の体験をお話す  
ることによって、入院されている皆様に地域医療だけでなく地域福祉の活用をできる、  
ということを知っていただくということが、活動の大きな柱です。

2、講演活動。御依頼がありましたら、精神障がいの立場で、様々な場所へ行き、  
自分たちのお話をし、精神障がいの理解を深めていただくことをしております。

3、会議の出席。地域課題を解決するために、様々な会議がございますが、そこに私達  
ピアサポーターが参画することにより、精神障がいの立場での発言をし、各地の施策に  
反映していただく、そして、精神障がい者がこの会議の場にもいて、発言ができるんだ  
ということを知っていただくことによって、支援者の方々にも、より身近に感じていた  
だくということをしております。

これら3つの活動をしております。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい、ありがとうございました。

たがやいいん みな ほっぴょう かつどう ないよう い  
多賀谷委員、皆さんが発表しましたように、活動の内容を言っていただいたらありが  
たいと思います。

たがやいいん  
(多賀谷委員)

わたし かながわけんちやうかくしょうがいしゃきょうかい たがや もう ねが  
私は、神奈川県聴覚障害者協会の多賀谷と申します。よろしくお願ひいたします。

わたし ちょうかくしょう しゃ たちば ちょうかくしょうがいしゃきょうかい だんたい かつどう  
私は、聴覚障がい者の立場として、聴覚障害者協会という団体で活動していま

す。  
おも かつどう め しゅわ こうしゅうかい め こうえん め  
主に3つの活動です。1つ目は手話の講習会、2つ目が講演です。それから3つ目が  
イベント。手話関係、それから差別解消などについてのイベントを行っています。また、  
いろいろなところで、啓発活動を行っています。

かんたん いじょう  
簡単にまとめましたけれども以上になります。

#### ないとうぶかいちょう (内藤部会長)

どうもありがとうございます。つぎ ほんざわいいん ほんざわいいん かつどう ないよう はっぴよう いけん  
次、榛澤委員。榛澤委員の活動の内容を発表、意見を出していただけたらありがたいです。

#### ほんざわいいん (榛澤委員)

みな かんたん かい かい かいほう かいほう つく  
皆さんおっしゃっていたもの、講演会などというのは、共通して私達も行っている  
んですけども、他に、機関紙っていう、あしたば会っていう会の会報ですね、会報を作っ  
て、それを当事者の人も読むし、御家族とか、一般の方も読む。そんなにたくさん発行し  
てるわけじゃないんですけども、そういう方法で、外に発信するという、障がい者の声  
を社会に伝えるってこともしてますし、あと、ホームページもありまして、そこでも、  
自分たちの活動のこととか、その機関紙も掲載していますし、理解促進に、多くに伝える  
手段はないんですけどもとにかく、自分たちが今できる範囲で、社会に理解を求めても  
らうための活動はしております。

#### ないとうぶかいちょう (内藤部会長)

はい、ありがとうございます。つぎ ゆみやいいん かつどう ないよう はっぴよう  
次に、弓矢委員、活動の内容につきまして発表ご  
いしましたらお願いいたします。

#### ゆみやいいん (弓矢委員)

かながわ身体障害福祉ネットワークの弓矢と申します。

かながわ身体障害福祉ネットワーク、通称「Kフレンズ」と言われているんですけど  
も、これはもう、簡単に言うと、ピアサポート活動を行っています。会員になってくだ  
さっている施設がいくつかありまして、それとは別に事務局に当事者の委員が何名か  
在籍していて、その当事者の委員が各施設を回って入居者の方にピアサポート活動を  
行ったり、あとは、施設の適切な運営のために施設へ聞き取りを行ったり、年に1回、  
その会員となってくさっている施設の皆さんと委員全員が集まって総会を開催して他  
の施設がどのように運営をしているかといった意見交換を行ったりしています。

それ以外にも、神奈川県の施設職員を対象としたシンポジウムが行われる際に、シ



ンポジストとして声がかかったり、あとは、グループホームについての調査を行っているため、意見をほしいということで意見を求められたり、というような活動をしていきます。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

私、内藤は、神奈川県身体障害者連合会でございます、障がい者施策の推進と啓蒙、それから障がい者の人のスポーツの普及をさせていただいております。

皆さまの意見ありがとうございました。

はんざわいいん  
(榛澤委員)

神奈川県精神障害者連絡協議会の榛澤ですけども、先ほど活動について聞かれて僕よく把握してなくて、社会活動の面ではさっき言った講演会とか、機関誌発行とか、行政の会議に参加したりなんですけども、主に居場所づくりとして、毎月フリースペースをやったり、あと、テーマを決めて語り合いをしたりとか、バーベキュー大会とか、新年会とか、そういう、活動もしています。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

今、発表していただきました。ありがとうございました。皆さん理解されたいと思います。次に、何か活動するに際して困っているようなことがございましたら、挙手を。

しもじょういいん  
(下条委員)

下条です。すいません。先にちょっとはつきりさせたほうがいいなって思うことがありまして、今の活動内容をお聞かせいただいていたんですが、団体さんの活動内容と、個人のピアサポーターとしての活動が混ざってしまっていると思うんですね。で、精神障がいの方のピアサポーターっていうのは地域移行・地域定着支援事業っていう事業の中の活動を担っていて、だから、それに対しては、言わなかったんですけども、団体の活動と、個人の個人的に動いてる活動と、そういう事業の中でやってる活動とか全部まざってしまっていて、何を発信したいのか、何を話し合いたいのかわからないので、そのところちょっとはつきりさせたほうがいいと思うんですが。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

今、下条委員の方から、団体で活動することと、それから個人でしてることとでちよつと違うことがありました。

しもじょういいん  
(下条委員)

事業でやってる、県とかの事業でやってるものと、個人でやってるものがまた別なんですよ。ピアって。ピアサポーターとして、個人的に活動してるものもあれば、事業としての枠組みの中で活動しているものもあります。その他に、当事者団体として活動しているものもまた別々にあります。

この場合、今回話し合う内容っていうのが、この団体の活動についての、普及啓発とか発信になるのか、それとも、個人的な活動についての発信をするものなのか、それとも、事業の中でやってる取組について、話をすべきなのか、その中のどれを話すのか、ハッキリさせないとごちゃごちゃになって訳がわからなくなっただけです。なので、それをどれにするのかをはっきりさせたほうがいいと思います。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。という、御意見がございましたんですけど。はい、事務局どうぞ。

じむきょく  
(事務局)

はい。事務局から、こんなふうな感じかというようなお話をさせていただきます。

まず、今日の資料1の中でも、個人または団体の活動っていうようなテーマの例として出させていただいているんですが、ここにもそういうふうにして書いてしまっていたんですが、そもそもやっぱり個人と団体とでは、話のテーマとして分けたほうがいいのであれば、そのように進めていただければと思いますし、それから多分ピアサポーターの活動を私どもはお願いをしている事業の話が絡むので、それは、あまり話されなかったってそういうお話だったと思いますので、当事者団体としての活動それから個人としての活動も、やはり御意見いただいたように分けたほうがいいのであれば、そういう形で議論を分けて進めていただけたほうがいいのかなというふうに思います。

我々はどうどちらでも対応できますので、よろしくお願いをいたします。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

今回に関しては団体ということで考えてよろしいですか。

じむきょく  
(事務局)

そのように皆さんが進めていただければ、事務局としては大丈夫です。

しもじょういいん  
(下条委員)

皆さんがどちらを話し合いたいかを、まず、挙手でもしていただいて決めていただけたほうがいいのではないかなと思うんですが。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。そういう下条委員からの意見がございました。団体と個人で全然違うから、個人の意見を議論したいということだったらっていう話ということで。

しもじょういいん  
(下条委員)

まず、個人の活動というのは例えば、個人的にどこかにのセミナーとかに参加してますとか、個人的に声をかけられて、講演会に参加してますとか、いろんな発表とかしてますっていうのは個人の活動だと思っんです。で、団体っていうのは、先ほどおっしゃったように当事者の団体があって、その団体の活動についての内容ととらえとか、何人、人が集まってるってとか、そういうことをその情報として発信するということだと思っんですね。

なので、個人の活動と団体の活動は全く別のものと捉えないといけないんじゃないかと思っんです。

今回は、まず、個人的な活動って人それぞれなので、情報を集めるのが大変ですし、何を集めればいいのかもわからなくなってしまうと思っんです。で、まず最初は、把握している団体さんの情報とか、あと、その団体の情報をどうやって発信していくべきかっていうのを話し合った方が私は良いと思っんです。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

という御意見でしたんですけど、事務局は全部いろいろ対応できるかっていうお話でした。

しもじょういいん  
(下条委員)

委員の意見を聞っつていうので挙手された方がいと。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

個人ということで思われる人はいらっしゃいますか。大丈夫、おられないですね。では、次に、団体として活動してることの発信をしたいという方は、はい全員ですね。ありがとうございます。

それでしたらこの議題に関しては、団体の活動に関しての御意見ということでよろしくお願っします。

それで、活動の内容につきまして先ほど発表していただきましたが、それは個人の部分だったから、この団体としては、もう少しこういうことがあるということでしたら言っつていただいてもよろしいですか。

それから団体で活動に際してこういうことで困っている、ということがございましたら。はい。高橋委員お願いします。

たかはしいん  
(高橋委員)

ゆりの会の高橋です。

団体の会員は、今、以前と比べますと減っているという状況でやっぱり困っています。盲ろう者の役員を受けてくれるような人材不足ということもあります。

また、通訳・介助員の養成ですね。触手話のできる通訳・介助員も減っているという状況で、そういったことで非常に困っております。会員をふやすためにどういう活動をしていけばよいか、よくわからないんですけども啓発のパンフレットを配ったり等はしているんですけどもなかなか増えない状況です。

また交流会等もしているんですけども、参加者も減っている状況があります。こういったことを困っています。他の団体の活動をぜひお聞きしたいと思っております。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。高橋委員の方から会員減少が困ってるという御意見がございました。それに対して、もうちょっとこうすればいいということがあれば言っていただいてもいいし、また違う自分のとこの団体ではこういうことで困ることがあれば、お話しいただければと思います。

はいどうぞ。小山委員よろしくお願いします。

こやまいん  
(小山委員)

うちも最初は25名でスタートして、地方っていうのは、65歳過ぎたボランティアさんとか、福祉関係で知り合った人たちが、そういった会議を作って、1日でもいいから親を助けたいっていうので、そういうことで、会長がつくっていたのを、いつかはなくなるんじゃないか、来月はなくなるんじゃないか、みたいな話で始まった。

他のところではこういったのをやってるっていうんで、私たちで行って、就労しているメンバーと、あるいは作業所のメンバーと施設メンバー、そういった個人とかで集まって、最初はだいたい若くて、だんたんみんな高齢化で、人数もだんだん減ってきて、今8名ぐらいになってきちゃって。

やっぱり、どうやって人数を集めたらいいのかとか、高齢化とか。あと、集まりの1週間前ぐらいLINEをやってるんですけど、どういった話をするとか、LINEでみんな繋がっている感じですね。

LINEをうまく使えるので、福祉関係をどこかに発信できないかなと思ってるんですね。実際問題。だからもっとふやしたいなあって。

うん。やっぱり<sup>びょうき</sup>病<sup>こうれいか</sup>気<sup>かい</sup>や<sup>いん</sup>高<sup>ふ</sup>齡<sup>そく</sup>化<sup>もんだい</sup>による<sup>まえ</sup>会<sup>ぶん</sup>員<sup>しゅう</sup>不<sup>つく</sup>足<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>です<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。前<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>文<sup>つ</sup>集<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>作<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>です<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。1年<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>1回<sup>つ</sup>、そ<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>感<sup>つ</sup>じ<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。

**たがやいいん  
(多賀谷委員)**

かながわけん<sup>つ</sup>聴<sup>つ</sup>覚<sup>つ</sup>障<sup>つ</sup>害<sup>つ</sup>者<sup>つ</sup>協<sup>つ</sup>会<sup>つ</sup>、<sup>たがや</sup>多<sup>つ</sup>賀<sup>つ</sup>谷<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。

聴<sup>つ</sup>覚<sup>つ</sup>障<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>者<sup>つ</sup>団<sup>つ</sup>体<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>中<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>一<sup>つ</sup>番<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>ず<sup>つ</sup>大<sup>つ</sup>事<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>思<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>や<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>ぱ<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>通<sup>つ</sup>訳<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。  
手<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>通<sup>つ</sup>訳<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>数<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>や<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>減<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>高<sup>つ</sup>齡<sup>つ</sup>化<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>今<sup>つ</sup>起<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>聴<sup>つ</sup>覚<sup>つ</sup>障<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>者<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>立<sup>つ</sup>場<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>や<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>若<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>通<sup>つ</sup>訳<sup>つ</sup>者<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>ふ<sup>つ</sup>や<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>たい<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>今<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>理<sup>つ</sup>想<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。

今<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>若<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>方<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>通<sup>つ</sup>訳<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>集<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>育<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>理<sup>つ</sup>由<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>見<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>み<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>例<sup>つ</sup>え<sup>つ</sup>ば<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>結<sup>つ</sup>婚<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>出<sup>つ</sup>産<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>子<sup>つ</sup>育<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>終<sup>つ</sup>わ<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>学<sup>つ</sup>び<sup>つ</sup>たい<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>方<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>多<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>悩<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>あ<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。  
以上<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。

**ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)**

はい、どうもありがとうございます。下<sup>つ</sup>条<sup>つ</sup>委<sup>つ</sup>員<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>ぞ<sup>つ</sup>。

**しもじょういいん  
(下条委員)**

ま<sup>つ</sup>ず<sup>つ</sup>今<sup>つ</sup>お<sup>つ</sup>聞<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>内<sup>つ</sup>容<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>団<sup>つ</sup>体<sup>つ</sup>さん<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>ち<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>抱<sup>つ</sup>え<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>点<sup>つ</sup>だ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>困<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。こ<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>発<sup>つ</sup>信<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>目<sup>つ</sup>的<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。

そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>発<sup>つ</sup>信<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>目<sup>つ</sup>的<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>会<sup>つ</sup>員<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>減<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>会<sup>つ</sup>員<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>高<sup>つ</sup>齡<sup>つ</sup>化<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>病<sup>つ</sup>気<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>人<sup>つ</sup>も<sup>つ</sup>多<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>通<sup>つ</sup>訳<sup>つ</sup>者<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>方<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>高<sup>つ</sup>齡<sup>つ</sup>化<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>り<sup>つ</sup>手<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>少<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>抱<sup>つ</sup>え<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。

だ<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>発<sup>つ</sup>信<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>人<sup>つ</sup>材<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>確<sup>つ</sup>保<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>たい<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>も<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>団<sup>つ</sup>体<sup>つ</sup>さん<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>ち<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>抱<sup>つ</sup>え<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>点<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>出<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>も<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>集<sup>つ</sup>め<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>ろ<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>ず<sup>つ</sup>1つ<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>め<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>次<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>じ<sup>つ</sup>ゃ<sup>つ</sup>あ<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>ば<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>解<sup>つ</sup>決<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>考<sup>つ</sup>え<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>ふ<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>ス<sup>つ</sup>テ<sup>つ</sup>ッ<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>踏<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>ご<sup>つ</sup>ち<sup>つ</sup>ゃ<sup>つ</sup>ご<sup>つ</sup>ち<sup>つ</sup>ゃ<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>な<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>思<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>ん<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>よ<sup>つ</sup>ね<sup>つ</sup>。

ま<sup>つ</sup>ず<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>私<sup>つ</sup>個<sup>つ</sup>人<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>順<sup>つ</sup>番<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>ず<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>団<sup>つ</sup>体<sup>つ</sup>さん<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>ち<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>今<sup>つ</sup>抱<sup>つ</sup>え<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>点<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>出<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>だ<sup>つ</sup>く<sup>つ</sup>べ<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>だ<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>思<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。そ<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>問<sup>つ</sup>題<sup>つ</sup>点<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>出<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>め<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。

次<sup>つ</sup>は<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>じ<sup>つ</sup>ゃ<sup>つ</sup>あ<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>ば<sup>つ</sup>解<sup>つ</sup>決<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>き<sup>つ</sup>る<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>。そ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>解<sup>つ</sup>決<sup>つ</sup>策<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>見<sup>つ</sup>つ<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>じ<sup>つ</sup>ゃ<sup>つ</sup>あ<sup>つ</sup>実<sup>つ</sup>際<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>ら<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>話<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>そ<sup>つ</sup>れ<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>ま<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>め<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>最<sup>つ</sup>終<sup>つ</sup>的<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>こ<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>結<sup>つ</sup>果<sup>つ</sup>を<sup>つ</sup>出<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>っ<sup>つ</sup>て<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>ふ<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>に<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>た<sup>つ</sup>ほ<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>い<sup>つ</sup>と<sup>つ</sup>思<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>の<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>す<sup>つ</sup>が<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>ど<sup>つ</sup>う<sup>つ</sup>で<sup>つ</sup>し<sup>つ</sup>ょう<sup>つ</sup>か<sup>つ</sup>、<sup>つ</sup>皆<sup>つ</sup>様<sup>つ</sup>。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

良い意見だと思います。それでしたら、今、下条委員からもお話がありましたけど、団体としてどのように発信に際して困ってるということを、ちょっと考えていただくことも含めて、ちょっと10分だけ休憩させていただきたいと思います。今15時ちょうどでございますから、15時10分再開ということでしたらと思いますけど、よろしゅうございますか。

きゅうけい  
《休憩》

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

時間になりましたので、どうぞよろしく願いいたします。それでは、首藤副知事がお見えになりましたので、御挨拶させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

しゅとうふくちじあいさつ  
《首藤副知事挨拶》

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

それでは、先ほどに続きまして、団体で困っているということで、いろいろ御意見をいただいているところでございます。奈良崎委員が来られましたので、団体で活動するに際して、こういうことで困ってるということがあれば。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

遅くなってすみません。奈良崎です。

にじいろでGO!でいつも毎回困ってるのが、会場の場所。というのは、例えば調理実習を行いたい、でも、例えば、団体の場合って会場予約が3ヶ月前なので、そうすると、いつ、3ヶ月前に誰が予約するのとか、それこそ、いま私たち藤沢でやっているの、結構藤沢って会議室があんまりなくて、今現在、3つしかなくて。例えば、そこがもう満杯だったら、他のところに行こうかって言うと、そこに交通費がかかっちゃうので、それで議論がストップしてしまうことが1点困っている。

それともう1点が、やっぱりサポートする支援者っていう立場の方が、私の会は、特に若い人がいないんですね。おじいちゃんおばあちゃんが多くなっている。メンバーには年を取った方も、若い方もいるので、そこに若いボランティアさんがいてもいいのかな、と今悩んでいます。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ありがとうございます。

オンライン参加の方で、団体の活動に関して何か困っていることがあれば、発言されたい委員の方はお知らせください。

今、団体の方で困っているということで、お話ししていただきましたんですけど、それに対して、こうしたら解決できやすいとか、何かあればどうぞ。

はい。宇都木委員、よろしく願いいたします。

### (宇都木委員)

私たちの会もやはり高齢化それから会員減少ということで困っておりまして、私、途中から理事になったので、ちょっとはつきりわからないんですけれども、会員をふやしていこうっていうことで、ふやすのであれば若い会員の方をふやしたいということで、二十歳前後の方で、視覚に障がいをお持ちの方を対象に、成人を祝う会という会を、毎年1月にしています。

これは各市町村に広報で呼びかけをしたり、あと特別支援学校、盲学校の特別支援学校の方に、こういうことをやりますということで、案内文書等を発送して、実際に毎年、2、3人の成人になられる方たちが、お見えになって、お祝いをしています。

もちろん、いっぺんにたくさん増えるってことはないんですけれども、ちらほらではありますけれども、若い会員さんが増えてきています。

それから、これは青年部の取組になりますけれども、青年部というのがありまして、これは3ヶ月ぐらいに1回になるのかな。おしゃべりサロンっていう感じで、ZOOMだったり、ブラステル・カンファレンスコールの電話会議室のシステムを使って、会員同士で話をして、いろんな情報交換等してその中で、やっぱりこう、お友達を紹介していただいたりしながら、若い会員さんをふやしていく取組っていうことを、今現在しています。それも、まだ始めたばかりですので、まだそんなに成果は上がってきていないんですけれども、でも、多分徐々に、あがっていくのではないかと思います。

### (内藤部会長)

はい、ありがとうございます。素晴らしい方法、良いサジェスチョンをいただいたのではないかと思います。はいどうぞ。小山委員。

### (小山委員)

横須賀本人会の小山です。私たちの場合はボランティアセンターを利用していますね。そこでポスターや案内を貼ってもらったり、案内を配布してもらって、何人か来てもらっている感じですね。あとは、例えば三浦に行ったり逗子に行ったり、他のボランティアセンターに行き募集かけたりしてるっていう。あとはラジオみたいなものがあるよって。ボランティアセンターと相談すると、ラジオがありますよとか、あと、我々を写し

たやつをホームページで流ながしますっていうのもあったりして。

あとは、何かこういった委員いいんかい会で配くぼったりとか、地元じもとの大学だいがくの先生せんせいがいれば、ぜひ、誰だれか若い方わかお願いしますってお願いして。あとは、配くぼれるときには、バザーとかで配くぼったり、あとは、児童会じどうかいとか、そういった行事ぎょうじでいろいろ配くぼっています。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

今いま、困こまっているということで、いろいろ御意見ごいけんいただいて、それぞれの団体だんたいでこういうことくふうで、工夫くふうしながらされているということの、発表はつひょうがございましたけど、ちょっと時間じかんの関係かんけいがございまして。

じむきょく  
(事務局)

今いまはまだ、課題かだいとかっていうのは、話はなしも尽くされてない部分ぶぶんはあるとは思おもうんですが、時間等じかんとうもありますので、一旦いったんここでいただいた、困こまってることごいけんと御意見ごいけんについて、いろいろお聞かせいただきましたので、事務局じむきょくの方ほうでその辺りあたまた整理せいりをさせていただいて、次回じかい、その資料しりょうをもとに皆さんみなでもう一度話いちどはなしし合あっていただいて、御意見ごいけん出だしていただいて、できれば解決策かいけつさくってところまで、話はなしがいたりすると、より良いよいのではないかなというふうおもに思おもいます。一旦事務局じむきょくの方ほうで預あずからせていただければと思おもいます。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ちょっと中途半端ちゅうとはんぱになりましたけれども、議題ぎだい1についてはこれで終わおらせていただき、議題ぎだいの2の方ほうをさせていただきたいと思おもいます。それでは、議題ぎだい2の方ほう、事務局じむきょくから説明せつめいをお願いいたします。

じむきょく  
(事務局)

しりょう もと せつめい  
資料2-1に基づいて説明

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

議題ぎだい2の指標しひょうの件けんにつきまして説明せつめいしていただきましたんですけど、この最後さいごの案あん、「障しょうがいのある人が生活せいかつにおいて不便ふべんを感じたり、危険きけんを感じる割合わりあい」をベースにしたもので、「障しょうがいのある人が日頃ひごろの生活せいかつのなかで、不自由ふじゆうを感じている割合わりあい」が、こうかんがえで出だしたら、どうでしょうかという、指標しひょうの事務局案じむきょくあんでございまして。

以前いぜんの場合は、上うへの方に書いてございまして「障しょう害がいのある人が身近みぢかで普通ふつうに生活せいかつしているのが当たり前あ前まえと思おもう割合わりあい」、これ1つしかなかったということなんですけど、もう1つ、もう1点で、この第2の「障しょうがいのある人が日頃ひごろの生活せいかつのなかで、不自由ふじゆうを感じている割合わりあい」というものを出だしたらどうでしょうかという、事務局案じむきょくあんでございまして。皆みな



さんの御意見をいただいて、作成していただいた。どうぞございますか。

はい。奈良崎委員、どうぞ。

奈良崎委員

奈良崎です。まず、事務局の案を読んだときに、不自由という言葉と割合という言葉が、多分、知的障がいの方の仲間は使わない言葉なので分かりにくいと思います。もう逆に多分、不自由という言葉が消しちゃってもいいのかなって思います。生活に困ったとかで。割合という言葉だと多分、割合という時点でわかりにくいので、それをどうしようかなって、今、文にするとちょっと考えながら、どうしようかなあと思ってます。以上です。

内藤部会長

奈良崎さんからは、割合という言葉と不自由という言葉が、どうもはっきりわからないんです、という人があるのではないかと御意見がありましたけれど、他の人、はい、下条委員。

下条委員

下条です。この、今回の指標っていうのが、もともとあるものの中に割合とかいう言葉が使われているのと、そもそもこれを読む人が、一般向けに作られているもので、その文章を、言い直すっていうふうになると書いてあるその県民ニーズ調査自体が全部、言葉の言い換えをしなければならなくなるのではないかと思っていて、今回の場合は確かに不自由っていうところは、わかりづらいと思うんですけども、割合は変える必要はないかなって思います。不自由っていうところも、知的の方だけじゃなくって、こういうことを全く知らない一般の人でもわかるような表現に変えたほうがいいのではないかなって思います。以上です。

内藤部会長

下条委員から御意見いただきました。それ以外の他の委員の中で、これに関して、はい。Webの榛澤委員どうぞ。

榛澤委員

たびたびの発言ですみません。手短にしゃべろうと思います。今おっしゃった日頃の生活の中で不自由を感じている割合っていうのは、そのトータルでなのか、それとも個別の案件、例えば、困ってることとして、例えば、部屋探しの時、精神障がい者の、他の障がいの方もそうでしょうけど、部屋探しとか、就労につ

いてとか、あと家族との関係とか、あと精神であれば他人から偏見で何か警戒されたり、  
そういういろいろ困ってるというか、不自由というか、困ってること不自由を感じるこ  
ともあるんですけども、そういう、項目ごとの割合を出すのか、それとも漠然と生きて  
て、不自由を感じるっていうか、そこは絶対なのかそれとも個別の内容を、例えば部屋探  
しで、引っ越すときに部屋を探すときに、なかなか借りられないというような項目があ  
って、それが何%あるかとかってそういうことなんですか。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。事務局の方で説明されます。

じむきょく  
(事務局)

はい。事務局から御説明させていただきます。

この割合っていうのは、回答の中で割合を御回答いただくんじゃないので、一人ひと  
りの御回答からすると、何か困ったことがあれば困ったことがあるっていうような形  
のお話になるかと思えます。ただ全体の、それを足し上げていくと全体の割合とか、全体  
の話になるかと思うんですけども、回答される、障がいの当事者の方が回答される  
場合には、1つ1つの、事例、部屋を借りるときとかっていうお話は今いただきました  
けれども、それでやっぱり困ったということであれば、困ったという回答をいただいて  
それを足し上げていくとそういう方々が多く出るのであれば割合が高くなる、そういう  
話かなと思えます。ちょっと説明が不十分かもしれませんが、以上でございます。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。はい。高野委員から挙手がありますのでよろしく願  
いいたします。

たかのいいん  
(高野委員)

はい。高野です。こういった書き方は、ぼんやりしていて個人差があるので、具体的  
な例を書いたらどうですか。

じむきょく  
(事務局)

はい。それでは、また事務局からお答えしたいと思います。全体としての聞き方、指標  
としては、少し大枠の聞き方になるかと思うんですけども、その際に例えば、こうい  
ったことで困ったとかっていう事例を後ろに載せるっていうことはできるかと思  
います。その方が回答される方もお答えされやすいんじゃないかと思えますので、そのように、  
検討はさせていただきたいと思えます。以上でございます。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。それでは、誠に申し訳ございませんけどちょっと時間の都合がございいますものですから、資料2-2を、事務局から説明させていただきます。よろしく願いいたします。

じむきょく  
(事務局)

はい。資料2-1の指標につきましては、今いただいた御意見を踏まえて、また、不自由というところを修正するというようなお話もいただきましたので、少し、事務局の方で整理をさせていただいて、部会長ともちょっと御相談をさせていただいて、決めていきたいと思っております。それではその次に資料2-2の御説明をさせていただきたいと思っております。

資料2-2に基づいて説明

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

今、御説明いただきましたですけど、これに加えないというような、御意見があれば、御発言くださいませ。はい。奈良崎委員、よろしく願いいたします。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

すいません。ちょっと文句じゃないんですが、非常に絵が多くて目がチカチカして見にくいです。本当にどれをメインに見ていいのか、最初のページのすぐ、普通は主役の1つで大きいのがあれば、周りの絵はいらないんじゃないかとか。病院があったり、車椅子の絵があったり、キンタロウさんがいたり、そんなのがグッチャグチャすぎて、どれをメインで見えていいのかが結構わかりにくいので、逆にそれを載せるんだったら次の、何かページの何かどっかに、これについてこうですよって説明の方が、多分一般の人もわかりやすいのかなど。ごめんなさい、これ本当に見にくいです。すいません。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。という御意見でございます。はい、下条委員。

しもじょういいん  
(下条委員)

下条です。今回、このイメージで渡されているものをベースに考えればよろしいでしょうか。これがまずベースになっていて、これに付け加えろとか、これは変えたほうがいいんじゃないかっていうのを、まず話し合うのかどうかお聞きしたいと思います。

じむきょく  
(事務局)

はい。事務局です。お見込みの通り、おっしゃられる通り御意見いただければと。

しもじょういじん  
(下条委員)

まず、文字が小さくて読みづらいです。それと、奈良崎さんもおっしゃってましたが、真ん中の2枚目、左側のページのところに、図を入れているのはいいんですが、矢印とか細かいものが多すぎてしまって、それに目が行き過ぎて、言いたいところが多分目に入らないなっていうのと、事例っていうか、こういう細かく、こういうのなど、みたいなところは書いてあるんですが、さすがにこれは小さくて読めませんって思います。なのでもうちょっとシンプルにさせていただいたほうがいいのかなというふうに思います。

あと、矢印が多すぎちゃって、これ減らしたほうがいいと思います。あとは内容を見ていくと、どうしても文字が多いのと、言葉が難しいなと思いました。これ、一般の方向けに、多分その障がい者向けではなくて一般の方向けと考えて作られてるって私は思ってるんですが、それでもさすがにこの言葉は難しいなっていうところは多くて、この辺は県とかの書類とか書面とかで書く文章ではなくもうちょっと、一般向けの文章に直していただいた方がわかりやすいのではないかと思います。以上です。

じむきょく  
(事務局)

ありがとうございます。本当にチカチカするし、文字がいっぱいだと私も思います。この辺りはですね、実は先ほどお話がありましたけれど、わかりやすく伝えるためにデザイナーによるデザイン支援をこれから受けていきます。ですのでプロのデザイナーが目を通して、皆さんがぱっと見たときに理解できるように、そういったパンフレットにしていければと思います。

ここで、ぜひですね今、言葉をもう少し、やわらかくとか、わかりやすくとか、ありましたが、言葉をどういうふうに、どういう言葉を使ったらわかりやすいかということであるとか、この項目は逃しちゃ駄目だよ、こういう言い方をしてはだめだよ。そういったアドバイスがありましたら、是非いただきたいというふうに思います。よろしく願います。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

宇都木委員よろしく願います。

うつぎいじん  
(宇都木委員)

すいません。もっと早くちゃんとイメージ図を説明しておいてもらえばよかったんですが、お話を聞きながら、ガイドの方に説明していただいたんですけど、すいません。

さっぱりわかりません。これを今、多分、視覚的に見た図ということで、私はもっとイラストが入るって、もっとこうなんか、わかりやすいイメージでいたんですけど、これだとちょっと全然私の理解力がないのかわからないんですけど、ちょっとわかりづらくて。

これをテキスト化したときに、どういうふうにしていくのかっていうところを、もうちょっと、当事者を含めて考えてもらわないと、これはちょっと図の部分は、視覚障がい者にはなかなか理解できないんじゃないかなと思います。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

今の御意見をいただいて、また再度、いろいろ検討していただいて、次のときにもう少し簡略化されたものが出てくるのではないかと期待したいと思います。

たかはしいいん  
(高橋委員)

高橋も、今の意見と同じです。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

ちょっと、あまりにも見づらいという意見がたくさん出ておりましたので、よろしく願いいたします。次に、申し訳ないんですけどあと15分しかございませんということでございますから、報告の方を、お願いしたいと思います。

じむきょく  
(事務局)

報告資料1に基づいて説明

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。御説明いただきましたけれど、この会議の内容を読んで、「こういうことが」ということを書面で出せば大丈夫ということですか。

じむきょく  
(事務局)

今回この資料をお出しした意味というのは、「部会委員からの御意見」というのが新たなところで、それぞれの意見というのを、皆さんは今回初めてご覧になったと思うので、それぞれの委員はこんな意見を言っていますというのを、ここで御紹介させていただいたものです。

これを踏まえて、次回、この参加についてどうするのかというのを県の方で検討して、その結果を御説明したいと思います。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。ありがとうございます。今、説明していただきましたんですけど、この報告に  
してもよろしゅうございますでしょうか。榛澤委員、よろしゅうございますか。

はんざわいいん  
(榛澤委員)

はい。榛澤です。たびたびの発言ですいません。

僕、前回ちょっと参加できなくて、この件はちょっと関心があつて、資料読ませていた  
だいて、委員として入るのが適当とか、参考人の形とか、僕はこういう協議会とか  
審議会とか調整会議とかって、要するに、権利条約で、私たち抜きに私たちのこと決  
めるなつていう大原則がありますし、あと、当事者目線つて言つて以上、やっぱり原則、  
委員として入るのが当然じゃないかなつて僕は考へております。

あと、ただ1人でも入ればいいつてわけじゃなくて、会議によつて例えば精神障がい  
者であれば、精神医療とか精神障がいに関係することを、当事者1人ではなく複数入つ  
たほうがいいんじゃないかと。

例えば、私、神奈川県精神科救急医療調整会議つていうのにも参加させていただ  
いてこの表には載つてないんですけども、そこは20人定員で11人がお医者さんで、  
精神の当事者は僕1人なんです。あと家族会がもう1人いるんですけど。やっぱりこ  
れ、お医者さんは絶対もちろん救急医療に関することなんで必要だと、ある程度の人  
数は必要だと思うんですけども、お医者さんが11人で、当事者1人つていうのはちよつ  
とバランスが悪いんじゃないかなと。

ほかの審議会とか協議会も、入るだけじゃなくて、やはり複数人入る。複数人が入つて  
協議会や審議会もあるかもしれませんけど、基本的には複数の人が、入つた方がいいの  
かなつて。

相模原だったか、神奈川県だったか、あまり同じ人ばつかじゃなくて、4年ごとに交代  
とかつて書いてあつて、より多くの人の意見聞きたいからつて、相模原市だったかな、書  
いてあつて。それだったら、同時に複数の方が入つてる方がいいのかなつて思つて。

僕も協議会と審議会いくつか以前からやらせていただいて、専門家の方がみんなよ  
く状況を把握して、意見を言つてるかという、ほとんど欠席の人もいるし、全く発言  
しない人もいるし、当事者だとわからないから発言できないとか、なんかそんなような  
ことが、前回の資料に書いてあつて、ちょっと当事者にはちよつとついていけないんじ  
ゃないかと。専門家の人がみんなついていけるかつていうと、ついていけるとは  
限らないし、やっぱり、そこにしゃべらなくても当事者がいるつてことがすごく大事で、  
それが当事者目線の1つだと思つし、そこで迷つてること自体がちよつと僕は、当事者  
目線つて打ち出しておきながら、どうしようつて聞くのもちよつとどうかなつてち  
よつと正直思つています。

で、ここに、表に載ってるやつって障がい者関係のだけだと思っんですけども、要するにそれ以外にも会議って膨大な数があるじゃないですか。相模原市もあるし、神奈川県も。こんだけたくさんあっても、毎年やっぱやんなきゃいけないとかっていう規則があると。この会議が、その丁寧に1つ1つ対応するよりも、やるのがもう、役所の方たちも、もちろんお忙しいでしょうから、1つ1つ会議の準備してるととても丁寧に1つ1つ処理できないとか、何ていうか、要するにやるのが目的みたいになっちゃっているような、協議会・審議会もあるんじゃないかと。僕も参加してそう思うんですけど。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。

じむきょく  
(事務局)

はい。御意見ありがとうございます。障がい当事者の方がどのように政策などを考え、その想いを、反映できるのかどうか、そういったことがすごく重要かと考えています。参加の形というのはいろいろあると思いますので、検討させていただきたいと思えます。御意見ありがとうございます。

はんざわいいん  
(榛澤委員)

ごめんなさい、あと一言だけ。

僕、何でこんな話をしたかっていうと、実際に当事者目線って言うおきながら、相模原市では、当事者の意見を無視して、障害者手当が廃止されたんですね。その審議会や協議会を、じゃあ何のためにやってんだと。それで、当事者から意見を、要するに、現実にこれというのは、当事者目線とか、会議に参加させても、結局実行しなければ意味ないし、そうやってもう相模原がそういうことやってるのに、神奈川県は何もできませんとか、やっぱり、一方で、当事者目線の意見をもっと聞くような、施策をしましょうって言って、言ってることは矛盾していると、僕は感じたので思ったんでそこもちょっと、実際に県が打ち出しても、市町村がそれを実行しなければ意味ないし、それを実行する方法も含めて、よく検討していただきたいと。ちょっと厳しいこと言いますが。すいません長くなってごめんなさい。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい、ありがとうございます。いろいろ御意見ありがとうございます。次第に沿った内容は以上でございますが、事務局から追加で聞きたいことがあると伺っていますので、事務局の方へお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

じむきょく  
(事務局)

はい。ありがとうございます。少し追加でお聞きしたい内容があります。

じかん ひじょう みじか きょう しりょう ごようい みなさま  
時間が非常に短くて、今日は資料も御用意していませんけれども、皆様から  
ごいけん ないよう さいご すこ じかん おも  
御意見をいただきたい内容ということで、最後に少しお時間いただければと思っております。

とく ことし かん がつ の とほんとう じしん ごうう さいがい  
特に今年に関しては、1月に能登半島で地震があり、そのあと、豪雨で災害があつたり  
つてこともありますので、そういった場合の、例えば、障がいのある当事者の方への  
じょうほうでんたつ しかた かくしちょうそん ほう げんざい ひなんこうどうようしえんしゃ  
情報伝達の仕方であったり、それからあと、各市町村の方で、現在は、避難行動要支援者  
めいぼ さくせい ぎむ ことごとく ひなん けいかく つく  
名簿を作成をすることが義務づけられたり、それから個別の避難のときの計画を作るこ  
とも、必要だつてというような形で今、各市町村が進めてるところだと思んですが、そ  
れでもまだまだ不十分なところがあると思えます。

しょう とうじしゃ みなさま ほう ごいけん きょう ほんとう じかん かぎ  
それを障がい当事者の皆様の方から、御意見を、また、今日は本当に時間が限られて、  
ひじょう ふじゅうぶん おも こんご すこ き  
非常に不十分だと思えますので、今後のテーマとして、少しお聞きできればというふう  
に思っておりますので、そういったことで、短時間になります、実際に体験したこと  
あつてもいいですし、御意見ということでもいいですし、お話をいただければと思いま  
す。よろしくお願いたします。

しもじょういいん  
(下条委員)

しもじょう さいがいじ じっさい なん いしん たいふう しょう かた  
下条です。災害時、実際に何かその地震とか台風とかのときに、障がいのある方が、  
ひなんじょ い じっさい けいけん ばしょ くるう  
避難所とかに行ったときに、実際に経験してみないとわからない、場所での苦労とか、す  
ごいストレスを感じたりするところとか、そういうのを直接聞き取りした方が多分いい  
と思えます。私も一度行って見て、初めて知ったことが多すぎて、それについてちょっ  
とこれは変えて欲しいとか、行政にこれは言いたいみたいなことが結構出てきているの  
で、そういうことをまず聞いていただいた方が、良いんじゃないのかなと思えます。以上  
です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

たかのいいん  
はい。高野委員。

たかのいいん  
(高野委員)

たかの さいがいたいさく わたし ほう なんけん  
はい。高野です。災害対策について私の方から何件か。

われわれ かんじゃ とく でんげん うしな しんばい じんこうこきゅうき ないぶでんげん  
我々、ALSの患者は、特に電源が失われることが心配です。人工呼吸器の内部電源が  
き ことごとく ぜん し こうにゆう ほじよじぎょう ぜんけん じっし  
切れれば、呼吸不全で死ぬからです。バッテリー購入の補助事業が全県で実施されるこ  
とを望みます。

すいがい どしゃくず しんばい とく いどう ひとで じかん けいほうはつせいじ  
あと、水害や土砂崩れが心配です。特に、移動に人手と時間がかかるので、警報発生時



には手遅れになります。注意報段階での避難が必要です。また、学校などの避難所では、電源確保や衛生面で問題があるので、病院だけでなく、ホテルなどを避難先として確保していただきたいと思います。以上です。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。ありがとうございます。はい。小山委員。

こやまいいん  
(小山委員)

私、東日本のときに、横浜で仕事をしていたんですね。地下での仕事だったんです。地下で、なんかみんな急いで上に行っているなっていう感じで、慌てていて。「どうしたんですか」って聞いたら、「いいから。急げ急げ」みたいな感じで、みんな上に上がって行って。「エレベーター使いな、階段で行け。止まるから」って。

なんで、っていう話はなくて。一生懸命階段で上がって。倉庫の仕事だったんですが、全員が集まって。何かよくわからないけど、どこかで地震があったっていう話で。この会社を今、この時間で閉めるから、各々帰ってくれっていう感じで、横浜から横須賀まで、普通だったら2時間で帰れるんですけど、その時は10時間ぐらいかかったかな。2時に終わって帰ったのが12時近かったんです。コンビニ行っても何もなし、どこで避難していいのかもわからないし。ああいうパニックになるときって、普段だったら、横浜に行けば仲間がいるとか、茅ヶ崎だったら仲間がいるとか、そういう判断ができたんですけど、全然もう人が動いて、もうとにかく逃げろ逃げろってみんな言って。携帯を使おうとしたら全然使えない。スマホが全然使えない。何が起こってるかわからないでみんな逃げてるっていう感じで。バスも動かなかった感じで、そんな感じで、10時間ぐらいかけて帰ったっていう感じですね。

たかはしいいん  
(高橋委員)

ゆりの会の高橋です。1年に1回、神奈川ではビッグレスキューというのをやっております。聴覚障がい者と、盲ろう者、コミュニケーションの経験などもします。肢体の方とか、他の障がい者の方たちは、あまり参加が少ないので、ぜひそれに参加していただければと思います。みんなの協力がが必要です。そう思いました。終わりです。

ないとうぶかいちょう  
(内藤部会長)

はい。奈良崎委員。

ならざきいいん  
(奈良崎委員)

最後に一言。奈良崎です。事務局にちょっと確認なんですけど、その地震の情報でい

いんですか。それが具体的に何を知りたいのかもうちよつと具体例を出さないと、事務局が何を知りたいのか、私は仲間に何の情報を流していいのかを教えて欲しいので、具体的に、後で良いので教えてください。以上です。

## （事務局）

はい。それでは事務局からお答えさせていただきたいと思います。

それぞれ障がいがある方が災害があったときの情報伝達であったり避難所に行ったから困ることも実際あるっていうように聞いたりはしているので、今日は、まず、どんなことが起こっているのかっていうのを、ざくばらんに伺いたかったというところで

今日は資料も何らお示しをしておりますし、それから災害対策であったり、そういったところを所管する県の所属も、今日は事務局にありませんので、また、少し整理をさせていただいた形で、様々御意見をいただきたいと思っております。

ですので、今回情報伝達の話だけとか、そういう絞ったテーマで、この場でお聞きしてるのではなくて、実際困ってらっしゃることはたくさん、おありなんだろうなというふうに思っております。

それで、少し付け加えますと、例えば、高野委員がおっしゃられた非常用の電源の話であれば、医療的ケア児のお子さんたちでも同じお話がありますし、制度的には障害認定されていれば日常生活用具の中で、各市町村が出すことはできますが、障害認定されてない方の場合ですと、それはまた別のことを考えないといけない。

それから、能登半島の地震のときには、何らか食料が届いたっていうお知らせが、音声でしかなかったの、聴覚障がいの方に伝わらなくて、食べることができなかったなんていう話も出ていますので、そのようなことが諸々あるかと思っておりますので、今日も資料も御用意していませんので、少し、ざくばらんに伺って、今後またしっかりと聞きしていきたいと思っております。以上でございます。

## （内藤部長）

どうも、ありがとうございました。まだ意見がいっぱいあるとは思いますが、また御意見をいただきたいと思っております。本当にいろいろ意見がたくさん出て、また私自身もいろいろ勉強させていただきました。本当に皆さんありがとうございました。それで、本日の会議の進捗等につきましては、11月12日の障害者施策審議会でも報告させていただきます。これにて事務局へお返しさせていただきますので、よろしく願いいたします。本当に長時間にわたりありがとうございました。

じむきょく  
【事務局による運営】

じむれんらく  
・事務連絡